

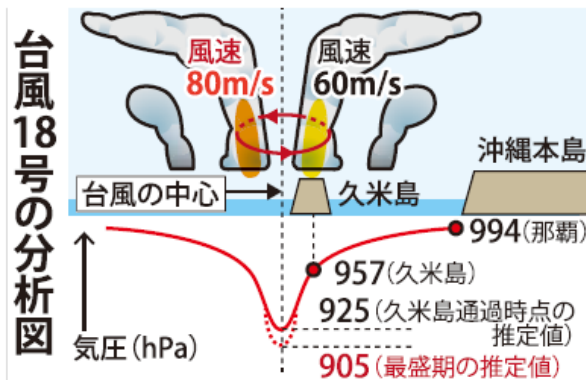
台風18号 西側で強風

琉大・山田准教授ら解析 瞬間80メートル

琉球大学理学部の山田広幸准教授らは7日、同大で記者会見し、久米島町で最大瞬間風速59・7メートルを観測した台風18号について、進行方向の東側より西側の方が風は強く、最大瞬間風速80メートルに達していたとする解析結果を発表した。台風は通常、西側より東側で風が強い傾向があるが、18号は逆になった。山田准教授は「進路がもっと東寄りで、台風の西側が久米島を通過していれば、より甚大な被害が出た可能性がある」と指摘した。

通常と逆理由は不明

琉大と気象庁気象研究所の共同研究で、南城市にある気象庁の「ドップラーレーダー」から台風に向かった。電波を発し、反射した電波の周波数の変化などから風速や雨の強さを測った。



※山田広幸准教授の提供資料を基に作成

18号は、中心から東側の暴風域で久米島を巻き込みながら北上。4日午前0時49分に久米島で最大瞬間風速59・7メートルを記録した。ほぼ同時刻の同0時40分ごろ、中心から西側の15〜25

キロの一部の範囲で80メートルが吹いていたと推定されるという。

山田准教授は「西側の同じ範囲では強い雨も伴っていたことも確認されている」とし、「積乱雲が急激に発達するメカニズムがあったと考えられるが、それがなぜ西側にあったかは解明できていない」とした。

レーダーによる解析で、中心気圧は3日午後3〜5時ごろに905メートルまで発達し、久米島通過時は925メートルと推定。台風の目の大きさは半径15キロで、通常の半分ほどの大きさだった。

山田准教授は「18号は雲がまとまった非常にコンパクトな台風だった」と説明。「今回のように小さい台風でもかなりの暴風を伴う恐れがある」と話した。